

【樹木の部屋】

サンシュユ(ミズキ科サンシュユ属 *Cornus officinalis* Sieb. et Zucc.)

和名：サンシュユ（山茱萸）

別名：ハルコガネバナ(春黄金花)、アキサンゴ(秋珊瑚)、ヤマグミ

英名： Japanese cornelian cherry

ミズキ目 落葉性小高木

原産地：中国、朝鮮半島

花言葉：持続、耐久、強健、気丈な愛、強い愛 他

花の色：黄



← 写真-1 サンシュユの樹姿

撮影日：2018年03月20日

撮影場所：日牟禮八幡宮(近江八幡市)にて

撮影者：M さん



←↑ 写真-2、3 サンシュユの小枝

撮影日：2018年03月20日

撮影場所：日牟禮八幡宮境内(近江八幡市)にて

撮影者：M さん



← 写真-4 サンシュユの花

撮影日：2018年03月20日

撮影場所：近江八幡市内にて

撮影者：M さん

3月～5月、若葉に先立って4枚の苞葉に包まれた、花弁が4枚ある鮮黄色の小花(散形花序)を、短枝の先に付けます。1つの花序には、小さな黄色の花が20～30個付きます。花弁と雄蕊は4つです。

日本に渡来したのは江戸中期だそうです。山菜萸の音読みが、和名の由来だそうです。

早春、葉がつく前に木一面に黄色の花をつけることから、「ハルコガネバナ」とも呼ばれ、秋

のグミのような赤い実を珊瑚に例えて、「アキサンゴ」とも呼ばれています。

内部にある種子を取り除き乾燥させた果肉(正確には偽果)は生薬に利用され、「サンシュユ」の名で日本薬局方に収録されており、強精薬、止血作用などがあるそうです。果肉は長さ1.4cm程の楕円形で、牛車腎気丸、八味地黄丸等の漢方方剤にも使われているそうです。

剪定

- ・枝が真横に近い方向に伸びる性質があり、放任すると枝が張った大株状になり場所をとります。早めに幹を1本ないし2～3本に整理してそれを樹形の中心として育てると樹形が整います。

- ・花芽は短い枝の先端に付き、長く伸びすぎた徒長枝には付きません。この徒長した枝を短く切り戻して整えるのが基本の剪定です。長い枝を切り、短く太い枝を増やすことで花付きも良くなります。枝の付け根から短い枝ごとぱっさり切り詰めると花芽ごと枝を切り落とすことになり、花付きが悪くなりますので要注意です。株元から勢いよく伸びる枝は、早めに切り落とします。作業は落葉期なら随時可能です。

- ・花後に新芽が伸び始めたら、込み合っている部分の枝や細くて弱い枝、枯れ枝などを枝の付け根から除去して、株の内側の枝まで充分日光が当たるようにします。こうすることで、生育、花付きがよくなります。7～8月には翌年の春の花芽が枝の内部で形成されますのでそれまでに作業を終わらせる必要があります。

- ・年を経て古くなった株は全体の樹形を一回り小さくするような感じで数年に1回、花付きが悪くなった古枝を付け根から切り落として、新しい枝を出させて株の若返りをはかります。また、枝を切る際はできるだけ外芽(木の外側に向かって伸びる芽)の上で切ると、枝が外側に広がってその後の樹形が整います。開花後～新芽が出る直前が適期です。